

11月5日(金)

午前 JABSONレクチャー

報告：横川 哲朗 (Aグループ)

朝、ホテルをチェックアウトし、JABSON(John A. Burrs School of Medicine: ハワイ大学医学部)へ向かう。ハワイ大学医学部の建物は最近建設されたばかりらしく、とてもきれいであった。9:00 からイツツ教授のレクチャーが始まった。イツツ教授の講義はすべて英語であり、細かいところは聞き取れなかった。途中、私の言いたいことはハワイ大学のホームページに書いてありますと言っていたので興味のある方はそちらを参考ください。アメリカの医学部の話から始まり、ハワイ大学の話、医学部の入学試験の話、ハワイの歴史、ハワイでの日系人の歴史などの講義であった。面白いと思ったのはハワイでの日系人の話。日本人は明治時代(1800年代後半)にハワイに移住し始めたが、日系人がハワイで地位を確立したのは第二次世界大戦(1940年代)のときであった。戦時中、日系人は敵国出身のためアメリカの軍隊に入隊できなかった。そのため自発的に軍隊に入り、他の部隊とは区別された部隊として戦場に投入された。しかも最前線、危険な戦場で戦ったため、たくさんのハワイ出身の日系人が死んでしま

った。出身国が敵国でありながら、戦争に参加し、勇敢な戦いを行った。そのため戦後、ハワイの日系人は認められ、医師や弁護士、教師といった専門的な職業に就けるようになったという話であった。

次はマチ教授からの日本語のレクチャーであった。興味をひいたのはアメリカでは日本での後期研修医に相当する residency や、fellowship



【JABSON】

に対する教育が ACGME (The Accreditation Council for Graduate Medical Education) という機関によってコントロールされているということであった。日本では後期研修医の教育はそれぞれの教育病院や医局によって行われているが、アメリカでは ACGME が後期研修医の病院ごとの採用数、研修内容、労働時間などを決定している。しかも ACGME は医師の各学会の代表だけでなく、研修医や一般市民の代表も参加している組織である。例えば、研修医のルールの一

つとして週平均 80 時間以下とされており、このルールに従わないとその病院は研修指定病院の認可を取り消されてしまう。最近では、ハーバードの付属病院で守られていないということで、危うくハーバードで研修医を採用できない事態になるところであったらしい。このシステムでアメリカは医師の質の標準化を行っている。しかし対照的に、日本で後期研修医は野放し状態であることが問題であると。この医師の質の標準化システムを東南アジアや中国、韓国が導入を考えており、シンガポールではすでに国家として病院へアメリカの機関である ACGME の監査の受け入れが始まっているらしい。このようなシステムで医師の質を守らないと、もしくは病院が国際的機関によって認定されないと、世界を相手にした医療ツーリズムなど今後失敗するのではないかと。

熱いマチ教授のレクチャーが終了し、昼食を頂きに JOBSON のカフェテリアへ向かった。